

# 第1回 「気候変動問題とその被害」

NPO 法人地球環境市民会議(CASA)と 自然エネルギー市民の会(PARE)が主催する市民講座が開催されています。6月14日の第1回「気候変動問題とその被害」、6月28日の第2回「世界で広がる気候訴訟」の概要を報告します。第3回は7月12日に「気候変動対策に市民の声を」、第4回は9月27日に「神戸石炭火力訴訟から学ぶ」のテーマで開催されます。

## 遠藤秀一さん(写真家、ツバル国環境親善大使)

ツバルはサンゴの堆積による石灰岩の基盤の上に貝殻やサンゴの破片、有孔虫(星砂)などの生物由來の砂が堆積してきた9つの島で成り立っている、人口は約1万人。土壤が乏しく、耕作地としては向き、また高波や海流の影響を受けやすく、海岸浸食にも脆弱な島国だ。

ツバルで発生している問題は①海面上昇に伴う内陸部での塩害被害と海岸浸食、②気候変動による高温化・サンゴの白化と干ばつ被害、サイクロンの巨大化・頻発、③人口流出だ。

真水は海水との比重の関係で、土壤表層から1~2m下がったところに溜まり、ウォーターレンズと言われる。住民は土を1~2m掘り下げ井戸を作り、落ち葉や食べカスを投げ込んで土を作り、主食のタロイモを作っている。しかし、海面上昇によりウォーターレンズに海水が流れ込み、井戸が使えなくなってしまった。

海岸浸食は1990年後半から激しくなり、海岸線が後退し、波打ち際にヤシの木の倒壊が多く見られるようになった。真水は雨水がたよりだか9ヶ月降らないこともあった。海水から真水をつくる装置が導入されていているが、1日バケツ2杯しか配給されない。ツバルは大家族が多く、これではとても足りない。サイクロンが巨大化し、2016年のサイクロンは島の上空で2週間停滞した。海水が流れ込みタロイモが全滅する被害が出た。

ツバルでもグローバリズムの影響から人口流出が激しくなっている。今年はオーストラリア政府が気候変動を理由に外国人に居住許可を与えるファレビリュニオンで年間280組が移住した。1組を6人家族とすると年間1680人になる。

人口約1万人の国で温暖化を背景に生活苦、不安、ストレスが若者の海外流出を招いている。

## 芳島昭一さん(国連 UNHCR 協会)

UNHCR 協会(国連難民高等弁務官事務所)は、難民を国際的に保護・支援(国内避難民も含む)している国連の機関だ。現在の活動支援地域は約135カ国、職員は約2万人(日本人約90名)。トランプ大統領が誕生し「人道支援には資金を出さない」との方針から、夏までには数千人の職員が居なくなる可能性がある。

紛争や迫害、自然災害等により故郷を追われた人は2024年5月末には1億2千万人以上に増加した。2011年は4千万人以下だったので3倍以上、日本の人口に匹敵するまでに増加した。

気候変動、異常気象に関する3つの重要な数字がある。①世界で避難を強いられている人々の約60%が気候変動の影響を最も受けやすい国に住んでいる、②災害や気候関連事象により、3200万人以上が新たに避難を強いられた(2023年)、③難民の約30%をエチオピアやソマリア、南スーダン等気候変動の影響を受けやすい国々が受け入れている。

2024年に起こった難民・国内避難民は、ブラジル南部の豪雨による洪水で約63万人、ケニアやソマリア、ブルンジ、タンザニアでも大規模な洪水が発生、バングラデシュのサイクロン、エルサルバドルでは地震と干ばつ、イエメンの洪水など世界各地で災害が発生した。またアフガニスタンは豪雨・洪水、地震、情勢不安、干ばつに加え、2023年の大地震では500万人が家を失った。

世界銀行は、気候変動が新たに生み出す「気候難民」は、2050年までに、干ばつが続くサハラ以南のアフリカで8600万人、自然災害が多い南アジアで4000万人、農作物の不作に悩む中南米で1700万人、合計1億4300万人と予測している。

気候変動は環境の問題であると同時に難民・避難民支援の活動から人間の尊厳の問題であると思う。